

西之内町地車新調実行委員会通信

2022年3月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
07244447712

西之内町新調地車 彫刻の物語背景と紹介（1-1） 歌舞伎の難波戦記

春光の候、西之内町の皆様におかれましては、ますますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回も新調だんじりの彫り物の場面について少しご紹介します。彫り物の題材である「難波戦記」については、これまで書物、伝記、講談などの様々な形で継承されてきました。そもそも「難波戦記」は江戸時代に作られた物語で、「大坂冬の陣」「大坂夏の陣」を元にしているのですが、かなり脚色と創作が入っています。また講談の世界では、地域性がさらに後押しして、豊臣勲勲の物語となっているところがあります。しかし、物語として非常に完成度が高く、関西、特に大阪庶民の人気を集めたものであります。

さらにこの「難波戦記」は、淨瑠璃や歌舞伎の演目としても上演されています。1894年（明治27年）11月から1895年（明治28年）9月にかけ『早稲田文



「難波戦記」(写本)

6年（1893年）に論文『我が邦の史劇』を発表、その実践例として『桐一葉』を創作したのであります。演目では、6幕16場の構成となっており、主人公は片桐且元となっています。「難波戦記」の中で且元にスポットライトをあてた内容となつており、徳川家からの難題を切抜けようと苦慮する且元と、猜疑心が強くヒステリックな淀君を中心に、崩壊していく豊臣家の運命を描いた境遇悲劇となつておられます。

だんじりの彫り物の題材で有名な場面としては、『長柄堤訣別の場』があります。且元を討とうとする大野親子の一味に鉄砲で追われた後、ただ一騎でやつてきた且元は、夜明け前の淀川の堤で遠く大坂城を眺めて感慨にふけりながら、木村重成を待ちます。やがて馬で駆けつけた重成は自身の思いを打ち明け、最後の最後まで豊臣家のために尽くしたのもむなしく、もはや徳川家との戦争は避けられなくなつたことを共

に嘆くのでありました。且元は重成に最後の事を託してそれぞれ別れてゆくという場面です。これは宮本町だんじりの連子に取り入れられています。

西之内町のだんじりでは、同じ第6幕の『片桐邸奥書院の場』を採用しております。



四代目宮本町地車 左平土呂幕 「長柄堤 木村長門守重成

片桐且元決別の場 彫師 上間庄平師

淀君からその方の忠節を疑わないという手紙が届き、且元は意を決して登城しようとしますが、友人の織田常真から、淀君の手紙は大野親子の陰謀であることと、娘蜻蛉の自害を聞くこととなります。戦闘が始まると、皆がいぶかるところへ石川伊豆守が駆け付け、大野親子を誅せんと戦闘をしかけ共に闘うことを勧めます。且元はその短慮を責め、豊臣家の内紛が徳川家に付け込まれる一因となり、伊豆守の勝手な行為で自らの計画が潰れてしまつたと嘆きます。伊豆守は申し訳なさに自害。大野親子が攻めてくるのも時間の問題となりました。且元は屋敷を立ち退くことを決意します。庭の桐の葉が静かに散りゆくのを見ながら「我が名にちなむ庭前の、梧桐尽く搖落なし、蕭条たる天下の秋、ああ有情も涙れぬ栄枯盛衰、是非もなき定めじやなあ」と嘆息します。豊臣家に尽くした忠義が届かないところを桐の葉（豊臣家の家紋）が落ちるということになぞらえて、天下の座から落ちることを感嘆する場面です。山本師は登場人物の顔の表情や動作で巧みに表現しております。



古い写真ですが、名役者で演じている桐一葉の『片桐邸奥書院の場』



す。写真は落ちてきた桐の葉を手にしているあの人物です。どの部分に配置しているかも含め、令和5年の完成をお楽しみにお待ちください。

また、松良部分と擦り出し受けの素削りから仕上げにも着手しております。松良部分は、縦に長くだんじり正面から見た場合に左右にどつしりとした感じでついている物や、大きく彫り抜きをしたものが、非常に好みの別れる部位であります。新調だんじりでは、後者のイメージを持つて人物や動植物の配置に限界まで気を配りながら進めております。少し遠目から臨んだ場合にも、深く彫りぬいていることがわかるよう意識しております。

脇障子部分の仕上げは終わっており、カスミ部分の細かい背景を仕上げ、彩色を待つこととなつております。この部分は、完成した

3月に入り引き続き大屋根、小屋根の枠合いの下絵から荒彫りを進めております。先月にご報告しました通り、前例のない場面を表現しているために、物語の内容を何度も読み返しては下絵に写し彫り始めております。

新調委員の独り言

ロシアのウクライナ侵攻という暴挙や東北での大きな地震、新型コロナウイルスの感染者数の高止まりという先の見えない中で、世の中はどこに向かっているのでしょうか。ここ数年、社会は誰かの批判や失態といったことを常に攻撃しているようになります。

ものは正面からではなく外側の一方向からとなる部位であるため、人物や動植物を経験則に基づいて配置しております。製作段階では気が付かないところへの配慮をする熱意を感じるところです。

彫り物の主要部分の製作期間は残り約1年です。山本師のこのだんじりに対する情熱がまだまだ上がるのことを確信する仕事ぶりです。完成をご期待ください。

新調地車の彫り物

進捗報告

△松良・脇障子の見た目